令和７年度
第１回 和歌山県立たちばな支援学校　学校運営協議会

令和７年６月５日(木)　　午前１０時～１１時３０分

出席者：委員６名　傍聴人６名

議　　題

1　会長及び副会長選出
2　学校概要説明
3　学校経営方針説明及び協議
4　意見交換

協議した内容

1　会長及び副会長選出

会長　　金川　宏　氏　　（有田市教育委員会学習支援員）
副会長　山口　育子　氏　（社会福祉法人有田ひまわり福祉会理事長）

2　学校概要説明（校長より）

開校からの児童生徒数の変化、学校教育目標、進路状況、センター的役割等について説明
・就労に関わる制度が１０月から変わるのでその点を踏まえて取り組みを行っていく。
・めざす子ども像『自分らしくいこう～楽しく・やさしく・たくましく～』
・卒業生進路状況説明・・・入学時から卒業後を見据えて各学部で必要となる力を育てていく。

3　学校経営方針説明及び協議

＜学校経営方針説明＞

（校長より）以下の４つの柱を重点に取り組んでいく

① 授業づくり・授業力向上
自立活動をテーマにして研修し、今年度は公開実践発表会でまとめを発表する。

② 安心・安全な学校づくり
未然防止の観点で、環境や指導のあり方を改善していくことが大切だと考える。

③ 地域に根ざした学校づくり
今年度は重点目標としてさらに活動をひろげていきたいので、ぜひ助言をいただきたい。

④ 働きやすい職場環境づくり
教員が意欲を持って働き続けたいと思えるよう、生成 AI の活用等、負担軽減をすすめる。

（各学部主事より）
「各学部の良い点や課題」について説明

＜協議＞

〇働きやすい職場環境

会議の精選や会議時間の短縮（事前にデータ確認。議題の精選）の取組。

人によって仕事のペースは違うが、退勤時間の意識付けをすすめ少しずつ変化してきている。

年休は、衛生委員会で推奨取得日数を１３日と決めて働きかけていく。

〇働き方改革について

新しい取り組みとして、初任の教員を校務分掌から外し、基本的な内容の研修やフォローができる体制にしている。

病気休暇や育児休暇取得の職員が増えることに伴い、補充教員が見つかりにくい状況ではあるが、教員免許がなくても雇用できる制度が始まった。教員業務支援員も活用している。

〇職場の雰囲気づくり

職員間の雰囲気は良い。ただ、助言を受けた時に批判と受け止めてしまうケースがある。互いに認め合う関係の大切さなど、職員会議などで伝えていく。人間関係づくり（コミュニケーション）やマナー的なことを研修してもいいのではないか。

〇ICT 機器の活用について

すべての児童生徒が ICT 機器を使えるようになっている。視覚優位の児童生徒が多く、デジタル機器の活用は有効である。肢体不自由の児童生徒も音を振動で感じるクッション等の支援グッズを活用している。

〇地域に根ざした学校づくりについて

現在も地域に出ての体験活動は積極的に取り組んでいる（高等部の広村堤防の清掃活動など）。そうした経験をとおして、人と関わる力を高めてほしい。

卒業生をゲストティーチャーとして迎え、働くうえで難しいことなどを話してもらう機会があってもよいのでは。そうした取組は、卒業生たちにとってもいい刺激になる。

→高等部の授業「先輩がせんせい」で毎年取り組んでいる。高等部の生徒にとっても実際に働く現場を見ることや働いている先輩から話を聞くことはよい経験で、どちらにもプラスになる取り組みである。